

「夢と希望に命懸ける」

「東尋坊」命の番人茂さん講演

福井県坂井市の観光名所「東尋坊」で自殺を思いとどまらせる活動に取り組むNPO法人「心に響く文集・編集局」の理事長、茂幸雄さん(76)は13日、金沢市の第一学院高校金沢キャンパスで講演した。「夢と希望に命を懸ける。絶対に失うな」と呼びかけに、高校生らは真剣な表情で耳を傾けた。【井手千夏】

金沢・第一学院高が企画

高校が「人を思いやる気持ちと命の大切さを知ってほしい」と企画した。

茂さんは福井県警の元警察官。2004年3月の定年退職前、最後の職場となった三国署(現坂井西署)に副署長として着任した。

在職中の1年間で、管内の東尋坊で亡くなったのは21人、80人近く。今年10月13日までに自殺志願者を700人を保護した。いつしか「命のゲートキーパー(番人)」と呼ばれるようになり、現在もスタッフ12人がパトロール活



生徒を前に、命の大切さを訴える茂幸雄さん(中央) —金沢市堀川新町の第一学院高校金沢キャンパスで

動を続ける。講演会では、活動の

映像を視聴した後、茂さんは自殺志願者のさまざまなパターンを紹介した。うつ病や精神障害だけではなく、エイズ(後天性免疫不全症候群)やLGBTなど性的少数者、セクシユアルハラスメントに悩む人もいると指摘。

保護後もサポートを続けている。生徒らにも「友達から相談があれば、心で聴いてほしい」と訴えた。「この世の悩みは解決できないことはない。(みなさんは)例外なく死を迎えるその時まで焦らず、自分のペースで生きればよい」と優しく語りかけた。講演会に参加した2

年生の本東真侑さん(16)は友達関係に悩み学校に通えなくなった時に友人から「存在しているだけでいい」と言われて救われた」と振り返り「SOSを出している人がいた時、その子にとっていい答えを出せるかは分からないが、相談に乗ってあげたい」と話した。